

観音菩薩と観音信仰

観音菩薩について 由来と意味

観音様は菩薩の一尊。仏教における大慈大悲の菩薩。

悩みや苦しみや悩みを聞き、救いの手を差し伸べてくださる慈悲の化身。

サンスクリット語でアヴァローキテーシユヴァラ

意味は「世の音を観じる」「世間の音声を観察する」

千手観音、十一面観音など様々な形態を持つている。

般若心経では智慧の象徴として現れている

観音菩薩の説話

慈悲と智慧の化身とされる観音菩薩の功德や救済の事を語られている。

『今昔物語集』の巻第十六は観音様の靈驗譚を集めたもので、以下のように登場している。

・観音信仰の功德 観音経を読んだり、観音像を拜んだりした人々が、観音菩薩の力により病気や災難から救われたり、往生したりする。

・観音の化身 観音様が人や動物に化けて、人々を助けたり、教え導いたりする話。観音菩薩はその時、その人に合った姿に化けて人々を助ける

しかし、ただ助けるだけではなく人々が自分自身で努力したり、他人と協力したりすることを促す。そして人々が自分の欲望や執着に囚われないように導く。

また、人々が真の幸せや安心を得るために必要なことは何かを教えてください。

苦しみや困難に直面したときには、自分だけでなく他人も思いやる心を持つこと。

自分だけでなく他人も幸せになることを願う。菩薩行。

観音信仰 歴史と巡礼

奈良時代頃、日常生活の上でのさまざまな利益を与えてくれる菩薩として親しまれる。

現世利益中心の観音信仰

平安時代、十世紀頃には来世的な観音信仰へ変化

平安末期に末法到来の危機感により厳しい修行や布教活動に励む僧が増え、彼らの庵が霊場となり、その中でも観音菩薩は来世救済の色を濃くしていった。観音霊場。

観音霊場を参詣して仏道結縁や現世安穩を願う人々が増えていく。霊場を巡る「巡礼」の始まり。

西国三十三観音巡礼

巡礼の民衆化により坂東、秩父巡礼。そして地方霊場の拡大 越後、蒲原、佐渡など

観音信仰の意義と心構え

その人、その時、その状況に合わせて私たちを救済し導いてくれる観音菩薩。

念じれば助けてくれるというわかりやすさが受け入れられ親しまれていった。

観音菩薩の御利益をいただくこうと霊場を巡る巡礼が登場

人びとの娯楽（旅行）とも繋がり、流行していく。一緒に巡礼した人同士を「同行」

私たちは困った時だけ助けてもらおうと都合よく考えてはいけない。日頃の信仰、生き方を大切に、何かあっても助けてくださるといふ観音様を心の支えとして日々の暮らしを心安らかに過ごしていきたいものです。

令和五年十一月二十四日 加茂法話会

安龍寺 斎藤隆光